



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



100円ショップの元祖は？

「100円ショップの元祖は？」と問われれば、だれもが「ダイソー」と答えるが、その原型が昭和初期の高島屋にあったことはほとんど知られていない。今から90年ほど前に高島屋は大阪を中心に「高島屋10銭ストア」を出店、最盛期には106店舗まで増やしたという。また、10銭だけでなく、20銭、50銭のストアも出したという。比較的順調に売り上げを伸ばしていたが、太平洋戦争による不況で結局廃業に追い込まれたという。



おやつ

江戸時代中期頃まで食事は朝夕のみ1日2食だった。そのため、農民たちが体力維持のため休憩時に取っていた間食のことを「おやつ」と呼んでいた。この「おやつ」という言葉は和時計での「八ツ時(やつどき=午後2時前後)」に由来している。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

現在一般的には、おやつは午後3時前後とすることが多い。これが、いつ頃定着したのかは定かではないが、カステラで有名な文明堂が、テレビCMで「カステラ1番、電話は2番、3時のおやつは～」と言うキャッチフレーズで軽快な曲に乗せて放送したことから、午後3時という時間が浸透したといわれている。

(追記)なぜ「電話は2番」か・・・電話が交換台を経由していた時代、文明堂の加入者番号が2番(2000～2999番をすべて文明堂で使用し、下3桁のダイヤルを不要とした)だからで、「2番」といえば(例えば赤坂局の2番と告げれば)文明堂につながっていた。昭和12年に文明堂が電話帳の裏に載せていた「カステラは一番、電話は二番」というキャッチフレーズに由来している(ウィキペディアより)。

星型要塞

この写真、一見すると函館の五稜郭に見えるが違う、オランダのブルタング要塞だ。80年戦争中(1568～1648年)にドイツとの国境近くに築城されたものである。

こうした星型要塞は、もともとは火砲に対応するため、15世紀半ば以降イタリアで発生した築城方式。しかし、戦車や航空機の実用化で無力化してしまい、現在では五稜郭がそうであるように、多くが観光資源化している。



トルコ石

12月の誕生石「トルコ石」の原産地はトルコと思われがちだが、そうではない。トルコ石の産地はペルシャ(現在のイラン)やエジプト。古くからそこで産出され、トルコを経由して欧州に運ばれていた(とくに十字軍の時代)。そのため、トルコから届く石という意味でトルコ石となったものである。

なお、英語では turquoise (ターコイズ) と言い、フランス語の pierre turquoise (トルコの石) に由来している。

ポインセチア(の語源)



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

アメリカの陸軍長官 J・R・ポインセット (poinsett) が、メキシコ駐在時代に発見したもので、1829年に本国に持ち帰ったのがこの植物である。のちにヨーロッパに紹介されポインセットの名を記念して、ラテン語でポインセチア (poinsettia) と名付けられた。ポインセットは軍人であると同時に医師、政治家、植物学者でもあった。

ポインセチアはクリスマスカラーの赤色と緑色が鮮明なことから「クリスマスフラワー」「クリスマススター」とも呼ばれている。

ルビ(を振る)

難読漢字などに振り仮名をつけることを「ルビを振る」というが、この場合のルビは宝石のルビーのこと。イギリスでは、活字の大きさごとに宝石の名前が付けられていた。明治時代に日本の新聞記事に使用されていた活字のサイズは 5 号 (10.5 ポイント)。そして新聞活字の振り仮名には 7 号活字 (5.25 ポイント) が使われており、この 7 号活字に近いサイズ (5.5 ポイント) の活字をイギリスではルビーと読んでいたことから、日本でも 7 号活字が「ルビ活字」と呼ばれるようになったのである。

(追記) ルビー以外の活字の大きさと宝石例・・・4.5 ポイント＝ダイヤモンド、5 ポイント＝パール、6.5 ポイント＝エメラルド